

令和7年度市民生活常任委員会議会報告会及び意見交換会について

1 日時 令和7年7月4日（金） 午後1時15分から午後2時45分まで

2 場所 福島県立小名浜海星高等学校（会議室）

3 参加者 海洋工学科 3年生 8名
専攻科機関科 1年生 2名

4 内容

(1) 第1部 議会報告会

いわき市議会2月定例会で審議した議案を市議会だよりにより説明



(2) 第2部 意見交換会（3班構成）

テーマ「海洋ごみ問題・ごみのリサイクルについて～ごみの減量やリサイクルの推進など、これらの課題を解決するために～」

5 意見交換会で発表された主な意見や提案

《意見》

- ・ごみのポイ捨ては、自分たちだけでなく海の生き物にも悪影響を与える。一人ひとりの「まあいいか」という気持ちが、大きな環境問題につながっていると思う。
- ・海洋ごみ問題はテレビやネットで見ると、自分たちの住む場所が直接関係しているという意識が低い。もっと身近な問題だと感じられるようにすべきだ。



- ・ 学校で海洋ごみについて学ぶ機会は少ない。ごみが海にたどり着くまでの仕組みや、生き物への影響を、もっと詳しく知るべきだと思う。
- ・ 街中のごみ箱が少ないため、ついごみを持って歩くのが面倒になってポイ捨てしてしまう人もいる。ごみを捨てる場所があれば、ポイ捨ては減ると思う。
- ・ SDGsの目標達成に向け、企業の環境配慮への取り組みは増えているけど、それが消費者にちゃんと伝わっていない気がする。もっと分かりやすくアピールしてほしい。
- ・ レジ袋が有料になったけど、結局有料なら買ってしまう人も多い。根本的なごみ削減にはつながっていないと感じる。ごみを減らすための別の方法を考える必要がある。
- ・ ペットボトルや缶のごみをリサイクルに出しても、特にメリットがない。お金やポイントがもらえたりすれば、もっと積極的にリサイクルしようという気持ちになる。
- ・ 海洋ごみの9割が陸から流れていると聞いて驚いた。自分たちが普段使っているものが、最終的に海の環境を壊しているということをもっと知るべきではないか。



《提案》

- ・ごみのポイ捨てする人を減らすために、海水浴場や港など、アウトドアレジャーをするような場所にごみ箱を設置してはどうか。
- ・ごみ拾いをスポーツにする「スポGOMI甲子園」のようなイベントを、もっと身近な地域で開催してはどうか。楽しみながらごみ拾いができるので、参加者が増えると思う。
- ・海洋イベントを企画して、ごみ拾いと同時に、海の現状について話を聞く機会を作ってほしい。体験を通して、海の環境問題をより深く理解できる。
- ・ペットボトルや缶をリサイクルに出すとポイントが貯まるシステムを導入してはどうだろうか。貯まったポイントで買い物ができれば、リサイクルが習慣になるはずだ。



- ・ごみがどこから来てどうなるのかを学べば、ごみへの意識が高まると思うので、小中高学生向けに、海洋ごみ問題への教育を強化してはどうか。
- ・マイボトルやマイ箸を使うと割引になるお店を増やすなど、環境に配慮した行動が、自分にとってのお得につながれば、より多くの人実践するのではないか。
- ・海洋ごみに関する啓発動画を制作し、SNSで拡散するのはどうだろうか。短い動画であれば、多くの人目に留まりやすく、若い世代へのアピールになると思う。
- ・新たな技術を活用して、ごみを回収する船や、ごみを回収する装置を作成して設置することなども考えられる。

